

C-3 : プレアワード

開催日時・会場 9月20日（木曜日）10:40-12:10 403(4階)

マーケティング志向のURA業務とは

競争的な研究資金に対するプレアワード業務は、URAの役割の一つとして期待されています。プレアワード業務を高度化するための方法論は多くあると思いますが、我々のグループは、マーケティングの観点から議論してきました。マーケティングとは、単に何かを販売することではなく、「価値を創造すること」と捉えることが一般的です。プレアワード業務においてURAが提供できる「価値」とは何でしょうか。どのようにすれば、それを「創造」できるでしょうか。マーケティングに関する理論的背景を知らなくても、無意識のうちにマーケティングの考え方を身に着けている人は多くいます。一方で、同じ業務をするときに、マーケティングを知って実行するのか、知らずに実行するのかによって、得られる結果に差が出るかもしれません。

昨年の年次大会では、プレアワード業務におけるマーケティング手法の適用可能性について議論したところ、会場の参加者の多くから適用可能性について賛同を得ました。そこで今年も、セッションの前半では、我々が考える「マーケティング志向のプレアワード業務」の全体像を会場の参加者の皆さんと改めて共有したうえで、各論として、2名のURAから事例を紹介します。マーケティング分野の研究者を講師として、議論の理解に必要な知識に関する講義も設定していますので、マーケティングに馴染みのない方にも、議論に加わっていただけるようになっています。セッションの後半は、前半の議論を踏まえ、マーケティング志向のURA業務とはどのようなものか、会場の参加者の皆さんとともに、議論を通じて探りたいと考えています。

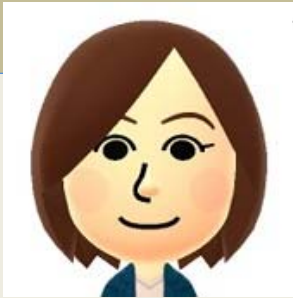
オーガナイザー

平井克之 : 新潟大学・研究企画室・URA



日本郵便にてコンプライアンス、人事、業務企画部門等を経て、平成27年10月から現職。研究資金申請支援等のプレアワードと研究IR業務を担当している。博士(理学)。

講演者



本間紀美 : 埼玉大学・研究機構URAオフィス・URA

医療機器、製薬メーカー勤務を経て、海外研究機関にて医学系基礎研究に従事。平成26年9月より現職。研究論文の計量書誌学的分析や科研費獲得状況分析等、研究力評価を担当。また、産学官連携・医工連携プロジェクトの競争的資金獲得支援も行っている。博士(理学)。AIPE認定 知的財産アナリスト(特許)。



三宅雅人 :

奈良先端科学技術大学院大学・研究推進機構・准教授 国際共同研究担当ディレクター

英国ケンブリッジ大学教員、国内の半導体装置メーカー、外資系半導体装置メーカーのテクニカルマーケティングマネージャー、新規技術分野推進室・室長を経て2014年1月にURAとして本学に着任。その後、研究推進機構の准教授に、現在は国際共同研究担当ディレクターとして、国際共同研究推進ならびに産官学連携業務を行っている。



山崎義広 :

新潟大学・大学院技術経営研究科・特任助教

メーカー勤務(セールス及びマーケティングを担当)を経て、2014年新潟大学大学院技術経営研究科にて修士号(MOT)取得。2017年、同大学大学院現代社会文化研究科にて博士号(学術)取得。同年4月より新潟大学大学院技術経営科特任助教。2014年よりJA新潟中央会JA戦略型中核人材育成研修講師。主な専門・関心領域はプレイス・ブランディング、関係性マーケティング、プラットフォームデザイン。